

1 不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える

仮に不登校になったとしても、小・中・高等を通じて、学びたいと思った時に多様な学びにつながることができるよう、個々のニーズに応じた受け皿を整備。

（主な進捗状況）

- 校内教育支援センター R6:12,712校→R7:**15,874校**（小学校:49.1% 中学校:77.5%）
R8概算要求において、校内教育支援センター支援員の配置に係る経費を拡充して要求（4億円→13億円）
- 学びの多様化学校 R6:35校→R7:**59校**
R8概算要求において、設置前の準備支援及び設置後の体制整備に係る経費を拡充して要求（1億円→2億円）
- 教育支援センター R5:1,743箇所→R6:**1,873箇所**
R8概算要求において、アウトリーチ支援体制の強化などの教育支援センターの機能強化に係る経費を拡充して要求（1億円→4億円）

2 心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援する

不登校になる前に、「チーム学校」による支援を実施するため1人1台端末を活用し、小さなSOSに早期に気付くことができるようにするとともに、不登校の保護者も支援。

（主な進捗状況）

- 児童生徒の心身の状況の把握に1人1台端末等を活用している学校
小学校 R6:46.5%→R7:**54.9%** 中学校 R6:55.2%→R7:**57.5%**
⇒学校のICT環境整備3か年計画（2025年～2027年度）における、1人1台端末を活用した児童生徒の
学校生活を支援するツールの整備に必要な経費を踏まえて、**地方財政措置**
- SCの相談対応件数・SSWの継続支援対象児童生徒への対応件数
SC R5:3,960,430件→R6:**4,173,783件** SSW R5:281,048件→R6:**312,145件**
R8概算要求において、SC・SSWの重点配置校等を拡充して要求（86億円→95億円）
- 各教育委員会における不登校児童生徒の支援に関する**地域の相談支援機関等の情報を文部科学省HPで公開**するとともに、
R6補正予算より、**保護者への相談支援体制構築の強化に関する事業を開始**
R8概算要求において、教育支援センターにおける保護者支援に係る経費を拡充して要求。（1億円→2億円）

3 学校の風土の「見える化」を通して、学校を「みんなが安心して学べる」場所にする

学校の風土と欠席日数には関連を示すデータあり。学校の風土を「見える化」して、関係者が共通認識を持って取り組めるようにし学校を安心して学べる場所に。

（主な進捗状況）

- 学校の風土の「見える化」に関する取組について調査を実施。⇒今後、**取組事例を周知予定**
- 校則の見直しの状況等について調査を実施。
⇒令和元年度以後、調査対象の公立中高の**約9割**が、校則等の制定又は変更を実施

